

# 投票日まで3か月を切った市議選

井原市議会議員選挙は、4月14日（日）告示、同21日（日）投票で行われます。投票日まで3か月を切りました。

今回の選挙は、定数が2減の20議席で行われます。今年になって、立候補するらしいと言われている人、今回、勇退するらしいと言われている人の名前が取りざたされています。

1月20日時点で、立候補するのではと言われている人の地域は、西江原町、西方町、高屋町、井原町、芳井町築瀬、美星町黒忠、美星町三山の各1名が、勇退するのではと言われている人の地域は、東江原、岩倉、七日市、上出部町、芳井町川相、美星町西水砂で各1名のようなようです。しかし、まだまだ流動的で、今後変化がある可能性も多分にあります。

2月14日（木）午後1時30分から井原市役所4階大会議室で「立候補予定者説明会」が行われます。この時には大体の様子が分かるのではないかと思います。

## 市政アンケート にご協力を

日本共産党は、井原市議選を前に、井原市民の方々が、井原市政についてどうお考えなのか、市政に関するアンケートをお願いしています。

そのアンケート用紙と返信用封筒（切手不要）などを入れていただきます。

皆さまの率直なご意見やご要望などをお気軽にお書きいただき、返送してくださいますようお願いいたします。



4月の井原市議選に立候補を  
予定している森本ふみお市議

## 井原市政に対するご意見・ご要望をお寄せください

井原市議会平成25年2月定例会の開会予定日は2月25日（月）です。皆様の井原市政に対するご意見・ご要望をお近くの党員か下記の電話・FAXにお気軽にお寄せください。皆様のご意見・ご要望が1つでも多く実現するよう、引き続き奮闘したいと考えています。

日本共産党後援会事務所  
森本ふみお宅

TEL 62-6200  
TEL 62-6061

FAX 62-6209  
FAX 62-6081

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

# 日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗  
「主張」より

## 2013年の始まり “政党らしい政党”の出番だ

21世紀最初の10年間は激動の連続でした。こうしたなか、世界では平和を求め、核兵器の廃絶をめざす動きも強まってきました。日本でもこの10年、自民党の政治が行き詰まり、政権が交代しました。政治を変えたいと願う国民は、アメリカ従属・財界本位の政治を変えようとする民主党政権に、失望と怒りを募らせています。

暮らしは深刻さを増し、将来不安も高まっています。国民の立場に立ってしっかりとした展望を示し、打開のためにたたかう“政党らしい政党”が求められます。



### 「民主党の自民党化」

この10年間、自民党は5人、民主党は2人の首相が登場しました。鳩山由紀夫首相を昨年引き継いだ菅直人首相も、年末の世論調査では支持率が20%台を割り込む寸前です。“自民党はだめだったが民主党も期待はずれだった”。率直な実感ではないでしょうか。

米軍普天間基地の「県内移設」を再確認した日米合意、野党時代に批判した「後期高齢者医療制度」の事実上の継続、小沢一郎民主党元代表らの「政治とカネ」の問題など、「民主党の自民党化」といった批判も高まっています。

だからといって自民党に「期待」が集まるわけではありません。民主の支持は落ち込んでも自民の支持は伸び悩み、政党「支持なし」層が「二大政党」の合計より多くなっています。

「『政党政治』が壊れていく」といった論調もあります。いったい政党とは何か、政党の値打ちはどうはかられるべきなのか。政治を変えたいと願い、その道筋を探求する国民にとって、この問題が避けられなくなっています。

「民主党が党綱領を持たないことは折に触れて批判されてきた。党綱領は政党の『憲法』ともいうべきものであり、綱領なき政党は基軸がない」。政治学者の岩井奉信日本大学教授の指摘です（『週刊エコノミスト』12月14日号）。綱領とは政党の目標や信条を、国民に明らかにしたものです。綱領がないとは、そういうことを国民に明らかにできないのと同じです。

日本共産党の志位和夫委員長は今年の赤旗まつりの記念演説で、綱領や歴史、外交力、自由と民主主義への態度、草の根の力など、政党の値打ちをはかるものさしを提起しました。



日本の政治の異常をただし「国民が主人公」の日本をめざすと綱領に明記する日本共産党と、綱領がなく迷走を重ねる民主党。紛争を外交で解決するよう力を尽くす日本共産党と、軍拡路線を競い合う党。「草の根の力」でも、財政を国民に依拠する日本共産党と、財界献金や税金による助成に頼る党とは対照的です。

### 政党の大道を歩む党

ことしは戦前の日本が中国東北部（満州）で戦争を始めた「満州事変」から80年でもあります。日本共産党は命がけで反対しました。ところが民政党、政友会の「二大政党」をはじめ他の党は軍部のお先棒を担いで戦争に協力し、党そのものを解散しました。その勢力を引き継いだ党では侵略戦争を反省できず、領土問題などが解決できません。

いっせい地方選挙もおこなわれます。“政党らしい政党”を選ぶことが大切です。政党としての大道を歩む日本共産党の前進こそが、日本の未来を切り開くことになると、心をこめて呼びかけます。

この「後援会ニュース」は森本ふみお議員の  
ブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。